

2026年3月期 第2四半期 決算説明会

2025年10月30日

JCRファーマ株式会社

【証券コード】 4552

【問合せ先】 経営戦略本部 広報・IR室 ir-info@jp.jcrpharm.com

- 本資料におきまして、当社に関する業績、その他予想、見通し、目標、計画、その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる可能性があります。
- 本資料には医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイス等を目的とするものではありません。
- 本資料の数字は百万円以下切り捨て、パーセンテージを任意の位で四捨五入し表示しています。そのため、合計数時に差異が生じる場合があります。

2026年3月期 第2四半期 連結業績

伊藤 洋
上席執行役員 経営戦略本部長

(単位：百万円)

連結	2025年3月期	2026年3月期			
	Q2累計	Q2累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
売上高	16,657	21,362	+4,705	+28.2%	56.5%
売上原価	4,330	4,323	△6	△0.1%	52.7%
売上総利益	12,326	17,038	+4,711	+38.2%	57.6%
販売費及び一般管理費	13,066	14,659	+1,593	+12.2%	54.3%
販売・一般管理費	6,489	6,824	+334	+5.2%	56.9%
研究開発費	6,576	7,835	+1,258	+19.1%	52.2%
営業利益	△739	2,379	+3,118	-	-
営業外収益	134	353	+218	+162.5%	-
営業外費用	1,016	370	△646	△63.6%	-
経常利益	△1,621	2,362	+3,983	-	-
特別利益	1,065	209	△855	△80.3%	-
特別損失	0	31	+30	+15,975.2%	-
税引前中間純利益	△556	2,541	+3,097	-	-
法人税等	134	830	+695	+515.1%	-
親会社株主に帰属する中間純利益	△691	1,710	+2,401	-	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	7,314	8,226	+912	+12.5%	48.1%

連結決算概要に関する補足説明

- 売上高は契約金収入が大きく増加し、前年同期比で28%増となりました
- 売上原価率（契約金除く）は工場の稼働率が低下したことにより若干上昇しました
- 販売・一般管理費の増加は、主に共同販促先等への手数料が売上増に伴って増加したことによるものです
- 研究開発費の増加は主に海外の臨床開発の進展によるものです
- 営業外収益の増加は主に為替差益の増加、営業外費用の減少は主に為替差損、持分法による投資損失の減少によるものです
- 当年度の特別利益は投資有価証券の売却益です

対売上高	2025年3月期 Q2累計	2026年3月期 Q2累計	増減
売上原価率	26.0%	20.2%	△5.8%
売上原価率 (契約金除く)	25.3%	26.3%	+1.0%
研究開発費率	39.5%	36.7%	△2.8%
営業利益率	△4.4%	11.1%	+15.5%

（単位：百万円）

連結	2025年3月期	2026年3月期			
	Q2累計	Q2累計	前年同期比		年間進捗率
			増減額	増減率	
グロウジェクト®	9,401	8,915	△486	△5.2%	50.1%
イズカーゴ®※	2,845	3,354	+508	+17.9%	52.4%
テムセル®HS注	1,521	1,582	+61	+4.0%	58.6%
腎性貧血治療薬	1,764	1,580	△184	△10.4%	51.0%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	962	296	△666	△69.2%	37.0%
ダルベポエチン アルファ BS注「JCR」	801	1,283	+482	+60.2%	55.8%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	714	426	△288	△40.3%	38.7%
医薬品合計	16,246	15,858	△388	△2.4%	51.0%
契約金収入	15	5,015	+4,999	+31,895.0%	91.2%
その他※	395	489	+94	+23.9%	-
売上高合計	16,657	21,362	+4,705	+28.2%	56.5%

売上高内訳に関する補足説明

- グロウジェクト®、イズカーゴ®、テムセル®HS注はいずれも当社予算に比して堅調に推移しています
- グロウジェクト®は、販売数量は前年同期と同水準でしたが、薬価改定の影響で前年同期比マイナスとなりました
- 腎性貧血治療薬は、販売先であるキッセイ薬品工業株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」は、販売先である住友ファーマ株式会社への供給計画に準じた売上高となりました
- 契約金収入は契約一時金や既存の契約におけるマイルストーン達成によるものです
- その他の増加はNPSプログラムの売上増によるものです

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

(単位：百万円)

	2025年 3月末	2025年 9月末	増減 ・ 主な増減項目		2025年 3月末	2025年 9月末	増減 ・ 主な増減項目
流 動 資 産	51,056	55,833	+4,776 ・ 現金及び預金 +2,425 ・ 売掛金及び契約資産 +1,409 ・ 棚卸資産 +1,655	流 動 負 債	43,988	47,508	+3,520 ・ 短期借入金 +2,400 ・ 買掛金 +462
				固 定 負 債	13,431	13,028	△402
				負 債 合 計	57,420	60,537	+3,117
固 定 資 産	53,798	53,221	△576	純資産合計	47,435	48,517	+1,082 ・ 配当の支払 △1,220 ・ 中間純利益 +1,710
				合 計	104,855	109,055	4,199
合 計	104,855	109,055	4,199	合 計	104,855	109,055	4,199

財務状態に関する補足説明

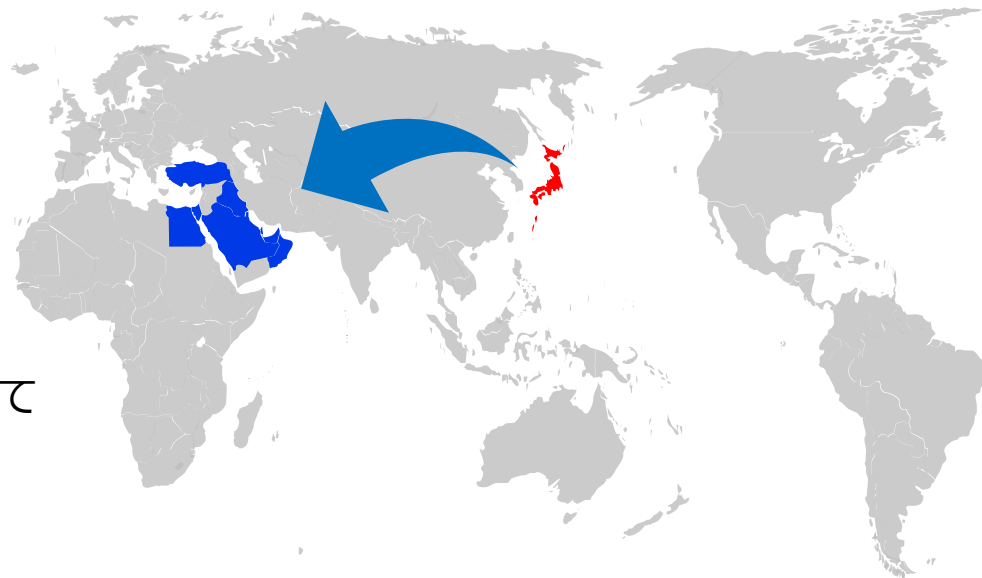
- ・ 棚卸資産の増加は、開発を行っている各プロジェクトの治験薬の在庫増加等によるものです
- ・ 短期借入金の増加は、運転資金の増加によるものです

	2025年 3月末	2025年 9月末
自 己 資 本 率 比	44.8%	44.1%

アガルシダーゼ ベータBS点滴静注「JCR」

- ・ ファブリー病治療酵素製剤のバイオ後続品
- ・ 2018年より日本国内で販売中

中東・トルコ・北アフリカの9カ国*に関して
Menagen Pharmaceutical Industries LLCと
独占的な開発・販売権の許諾契約を締結



日本での製造販売承認を活用し
契約地域での製造販売承認申請および販売活動をMenagen社が実施

* サウジアラビア王国、アラブ首長国連邦、オマーン国、クウェート国、カタール国、バーレーン王国、トルコ共和国、イラク共和国、エジプト・アラブ共和国

開発品目の進捗

Anne Bechet

上席執行役員 開発本部長

JCR Europe B.V. General Manager

JCR USA Inc. General Manager

開発番号	適応症	開発段階				備考
		前臨床	Phase 1	Phase 2	Phase 3	
JR-141	ムコ多糖症II型（ハンター症候群）	Global Ph3				・ ～2027年度 米国・欧州・ブラジルでの承認予定
JR-142	骨端線閉鎖を伴わない 成長ホルモン分泌不全性低身長症	Ph3（日本）				・ 患者登録は順調に進行中
JR-171	ムコ多糖症I型（ハーラー症候群 等）	Global Ph1/2 completed				・ 導出に向けて交渉中
JR-441	ムコ多糖症IIIA型（サンフィリッポ症候群A型）	Ph1/2（ドイツ）				＜Ph1/2＞ ・ 当初予定していた投与群での1年間の臨床データを取得 ＜Ph1＞ ・ 目標症例数の登録完了
		Ph1（日本）				
JR-446	ムコ多糖症IIIB型（サンフィリッポ症候群B型）	Ph1/2（日本）				・ 最初のコホートの患者登録を完了 ・ メディパルホールディングスに導出
JR-471	フコシドーシス					・ メディパルホールディングスに導出
JR-479	GM2ガングリオシドーシス （テイ・サックス病、サンドホフ病）					・ メディパルホールディングスに導出

遺伝子治療プラットフォーム技術 ～JUST-AAV技術の進展～

藺田 啓之

取締役 専務執行役員 研究本部長



目的組織への送達が困難

- 中枢神経系、筋組織、軟骨、等
- 血液脳関門がAAVの通過を阻む¹



副作用の懸念

- 高用量のAAV投与による、肝障害、血栓性微小血管症、神経毒性などの副作用の可能性²
- 臨床試験において肝障害による死亡例あり²⁻⁴



AAVベクターの大量生産

- 製造工程が複雑で高度な技術が必要⁵
- 品質管理が極めて重要



中和抗体による薬効の減弱

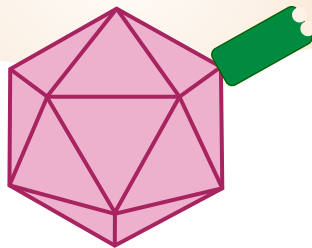
- 自然感染により、治療前から中和抗体を有する場合あり⁶



超高額の薬価

- 医療費増加への影響⁷

JUST-AAV



AAV: アデノ随伴ウイルス

JCR

JCRによる

Ultimate destination of organ

標的の臓器に輸送し

Safeguarding against off-target delivery

標的外の臓器への輸送を防止する

Transformative technology

革新的な技術

ex. 脳・筋

目的とする組織・臓器への指向性を有し、かつ
特定の組織・臓器への移行性を低減したAAV

ex. 肝臓



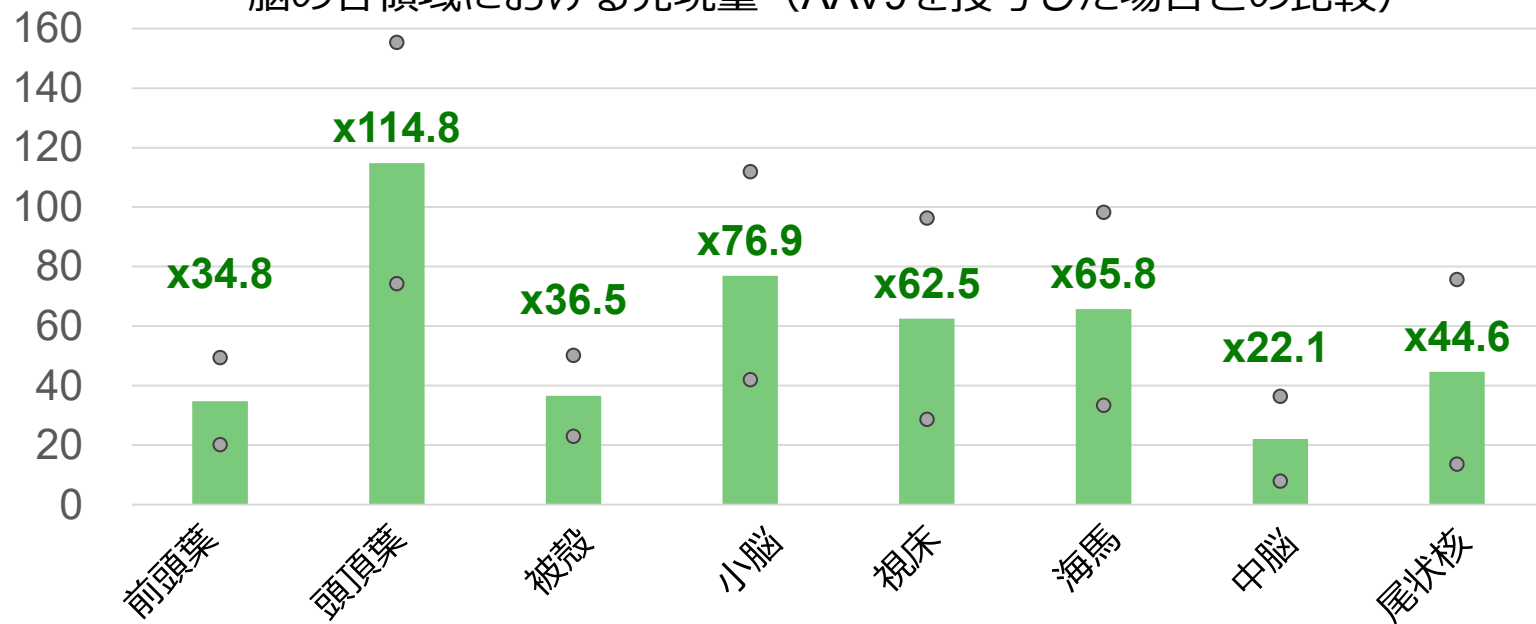
AAV9



脳指向型JUST-AAV

脳の各領域における発現量（AAV9を投与した場合との比較）

mRNA
(Normalized to AAV9)



脳指向型JUST-AAV: n=2、AAV9: n=1

GOI: H2B-HA, 2.7E13 VG/kg, 4 weeks after admin



AAV9



脳指向型JUST-AAV



肝臓

VG in tissue
(copies/ug-tissue DNA)

1.5E+07
1.0E+07
5.0E+06
0.0E+00

AAV9

JUST-AAV

0.3%

後根神経節

頸部

胸部

腰部

2.5E+04
2.0E+04
1.5E+04
1.0E+04
5.0E+03
0.0E+00

AAV9

JUST-AAV

11.7%

AAV9

JUST-AAV

19.5%

AAV9

JUST-AAV

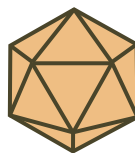
14.1%

脳指向型JUST-AAV: n=2、AAV9: n=1

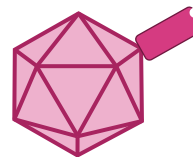
GOI: H2B-HA, 2.7E13 VG/kg, 4 weeks after admin



AAV9



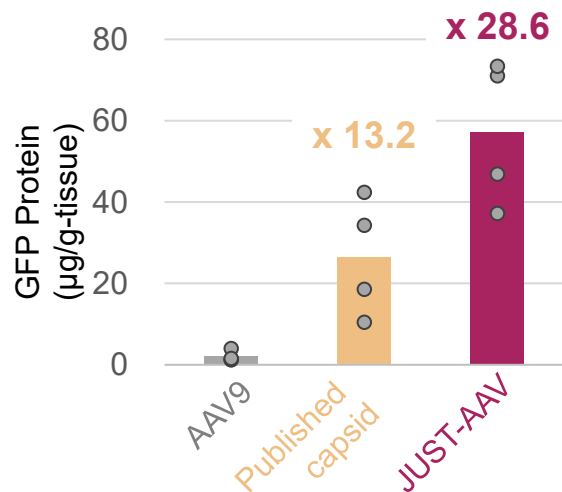
Published capsid¹



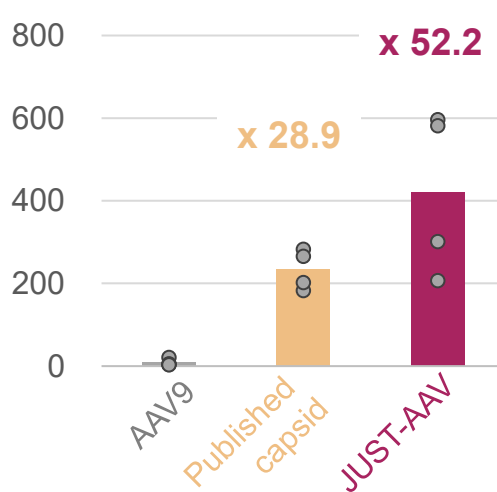
筋指向型JUST-AAV



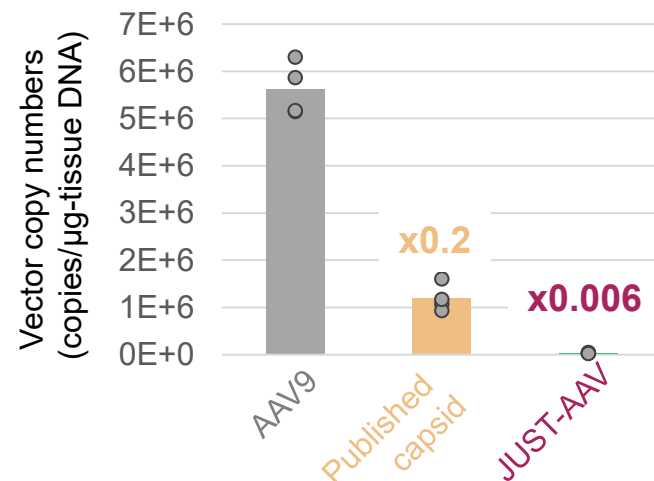
大腿四頭筋



心臓



肝臓



Published capsid：筋指向型のウイルスベクターとして広く認知されている改変型AAV

GOI: GFP, 1.0E13 VG/kg, n=4, 2 weeks after admin

AAV9

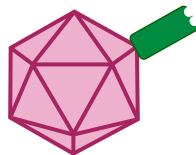


Low



Low

脳指向型

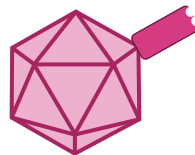


High



Low

筋指向型

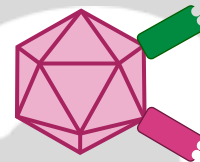


Low



High

二重標的型



High



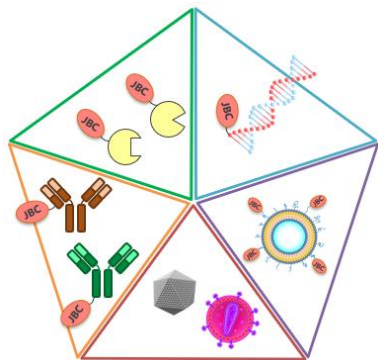
High



Barcode study (AAV pool was injected)
5.0E12 VG/kg iv per each AAV, n=1, 2 weeks after admin

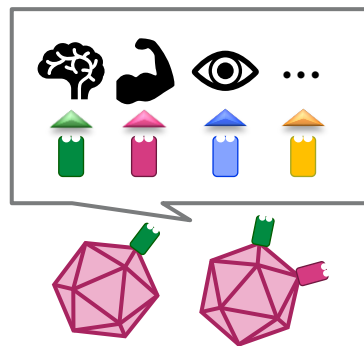
基盤技術のライセンスアウトを拡充し、
希少疾病にとどまらず画期的な治療薬を創製する

J-Brain Cargo®



多様なモダリティに応用可能な
血液脳関門通過技術

JUST-AAV



標的とする組織への送達性を高め
肝臓への集積性を低減させたAAV

ライソゾーム病

神経変性疾患

筋疾患

神経炎症性疾患

神経腫瘍

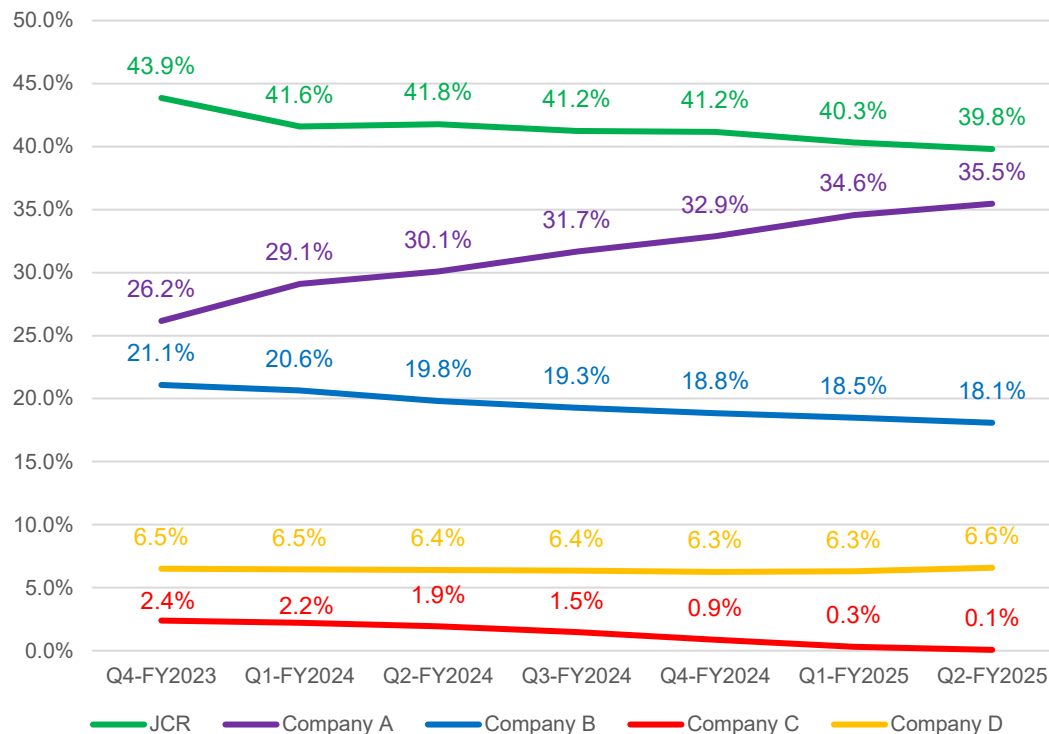
...

Life is Rare

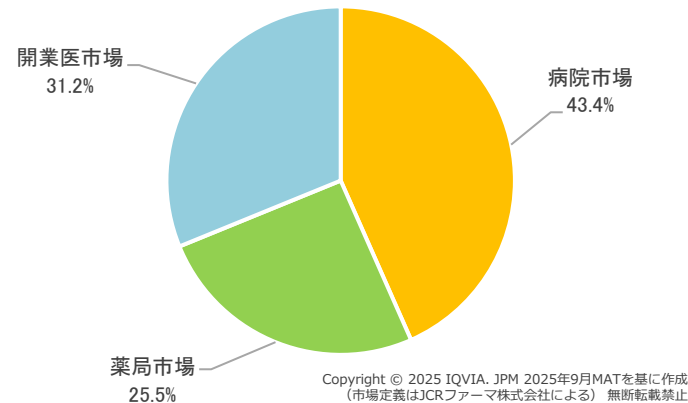


Appendix

国内GH市場シェア推移（FY2023 Q4～FY2025 Q2）※薬価ベース



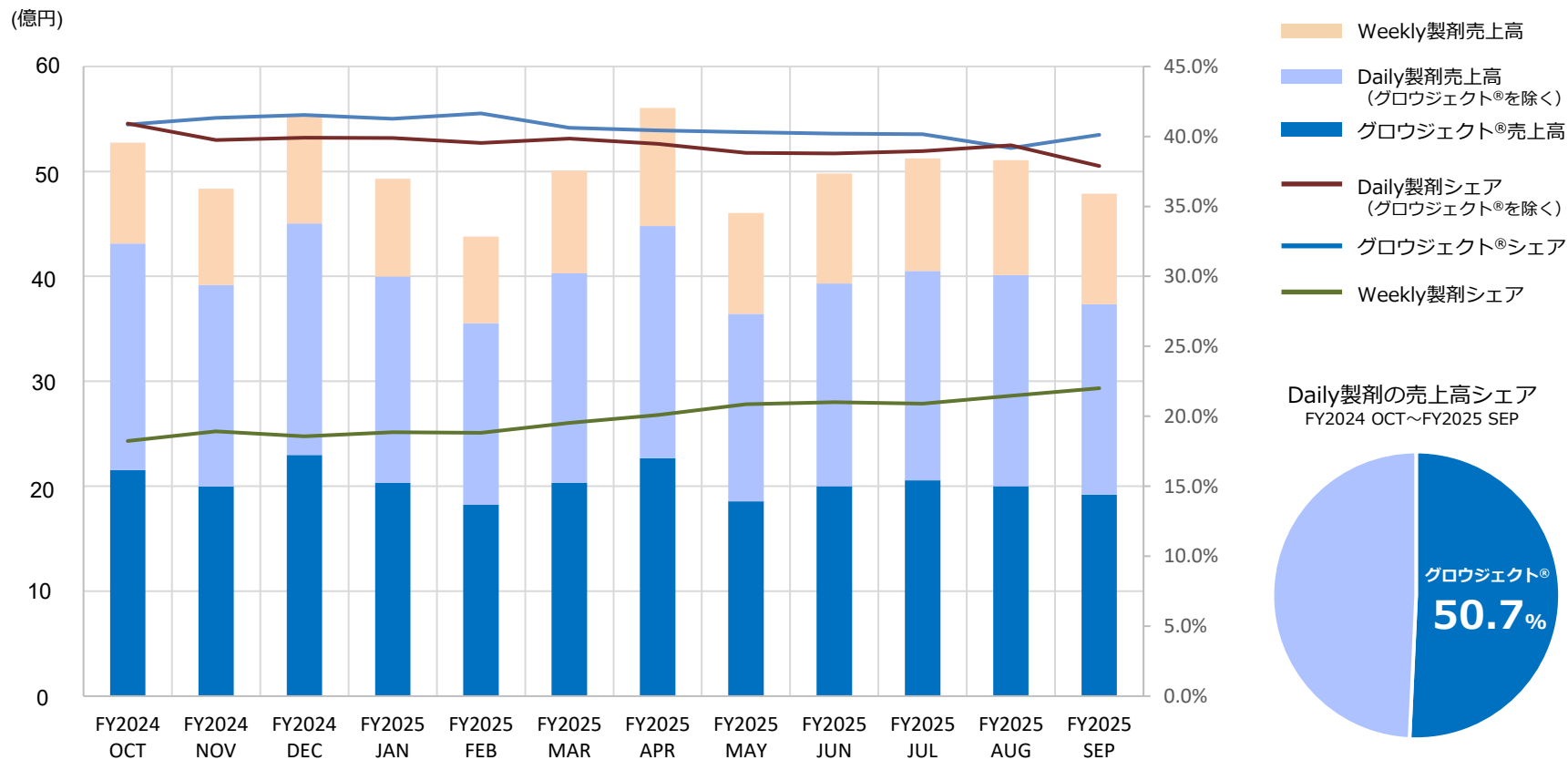
■ 国内GH市場

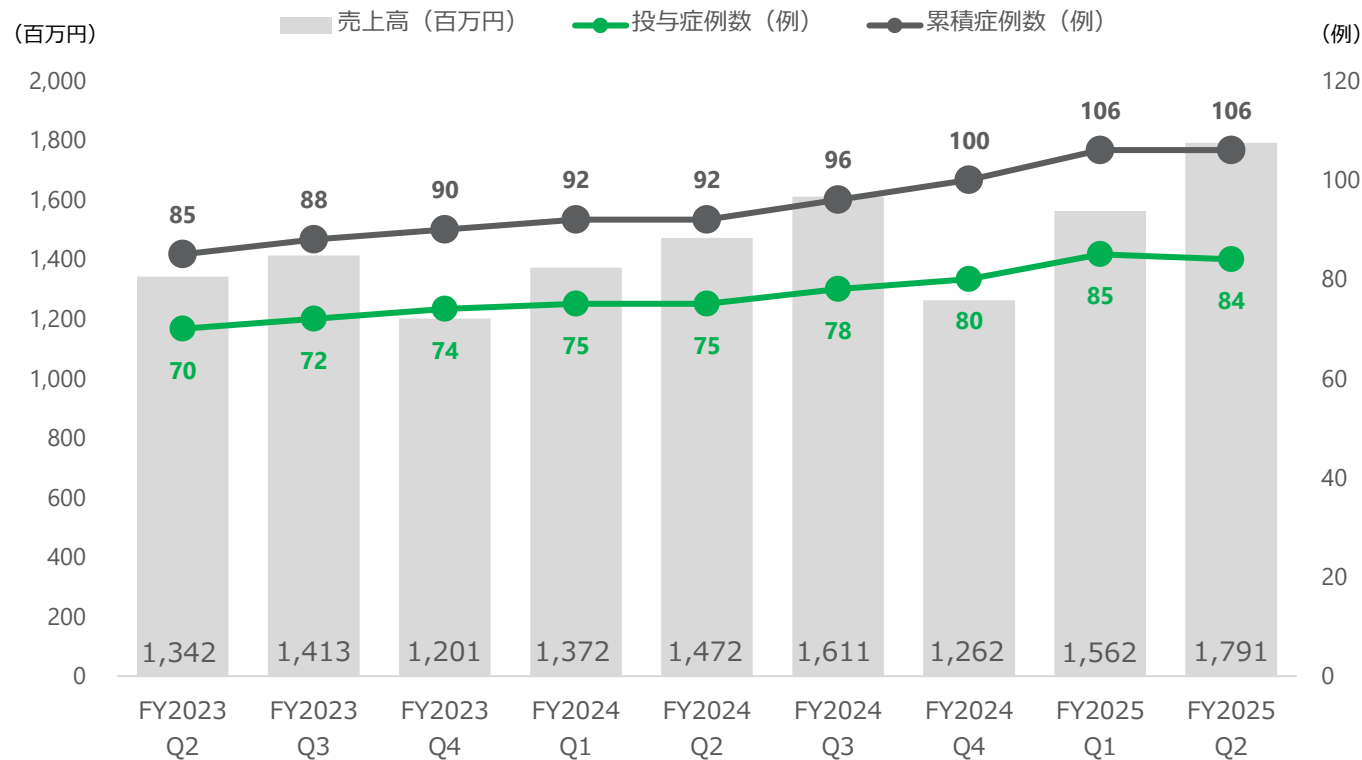


■ 各市場別 グロウジェクト®獲得シェア

	2025年 9月時点	FY2025 Q2売上増減 (vs FY2024 Q2売上) ※薬価ベース
病院市場	31.3%	-176百万円
薬局市場	29.1%	-22百万円
開業医市場	59.6%	-11百万円

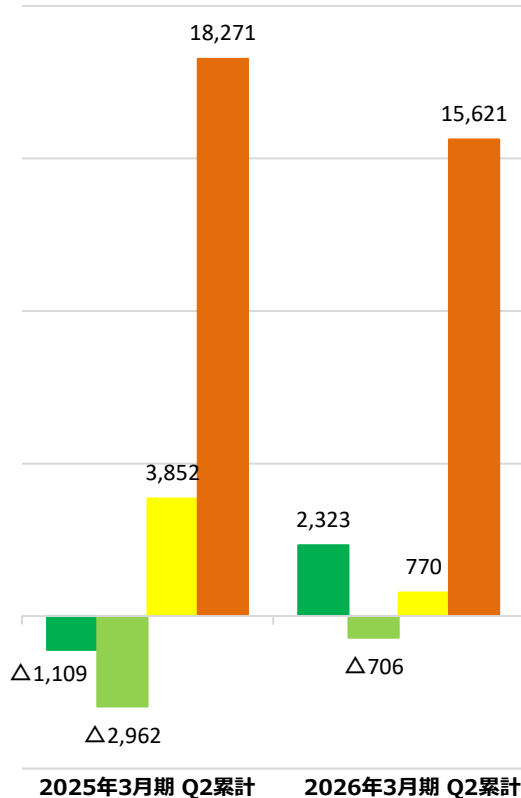
Copyright © 2025 IQVIA. JPM (2025年7月-2025年9月) を基に作成
(市場定義はJCRファーマ株式会社による) 無断転載禁止





（単位：百万円）

■ 営業活動によるCF
■ 投資活動によるCF
■ 財務活動によるCF
■ 期末現金及び現金同等物



	2025年3月期 Q2累計	2026年3月期 Q2累計	増減
税金等調整前純利益	△556	2,541	3,097
減価償却費	1,667	1,459	△207
売上債権・未収入金（△増加）	2,649	△897	△3,546
棚卸資産（△増加）	△1,830	△1,655	174
仕入債務・未払金（+増加）	△190	271	462
法人税等の支払	△1,451	783	2,235
その他	△1,397	△180	1,216
営業活動によるCF	△1,109	2,323	+3,432
設備投資	△2,992	△911	2,081
その他	30	204	174
投資活動によるCF	△2,962	△706	+2,256
借入金	5,112	2,000	△3,112
配当金・自己株式	△1,233	△1,202	30
その他	△26	△27	0
財務活動によるCF	3,852	770	△3,081
現金及び現金同等物の増減額	△484	2,425	+2,909
期末現金及び現金同等物	18,271	15,621	△2,650

	2025年3月期		2026年3月期	
	Q2累計	通期	Q2累計	通期（予想）
減価償却費	1,667	3,374	1,459	1,900
設備投資	2,992	9,888	911	10,300

【2026年3月期 予想】 連結決算概要

(単位：百万円)

連結	2025年 3月期	2026年3月期		
		予想	前年同期比	
	実績		増減額	増減率
売上高	33,072	37,800	+4,727	+14.3%
売上原価	11,333	8,200	△3,133	△27.6%
売上総利益	21,738	29,600	+7,861	+36.2%
販売費及び一般管理費	28,389	27,000	△1,389	△4.9%
販売・一般管理費	12,958	12,000	△958	△7.4%
研究開発費	15,431	15,000	△431	△2.8%
営業利益	△6,650	2,600	+9,250	-
経常利益	△7,477	2,400	+9,877	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	△4,759	3,000	+7,759	-
(ご参考) 共同開発先による負担控除前の研究開発費	16,994	17,100	+105	+0.6%

連結決算概要（予想）に関する補足説明

- 売上高は、イズカーゴ®の売上増や契約金収入の増加を見込むため、前期と比較し増加する見込みです
- 売上原価は、前期に製造関係の資材の廃棄損が発生したため、前期比では減少を見込みます
- 販売・一般管理費は、効率的な事業遂行などにより前期比で減少する見込みです。また、研究開発費についてもグローバル臨床試験の進捗があるものの、前期には治験薬等の廃棄損が発生しているため、前期比では減少する見込みです
- 営業利益は、契約金収入の増加を主因として、前期比で増加する見込みです
- 神戸サイエンスパークセンター（原薬工場）の補助金の金額確定に伴う圧縮記帳により、前期以前に計上した減価償却費相当分の特別利益が発生する見込みです

対売上高	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上原価率	34.3%	21.7%	△12.6%
売上原価率（契約金除く）	34.8%	25.4%	△9.4%
研究開発費率	46.7%	39.7%	△7.0%
営業利益率	△20.1%	6.9%	+27.0%

【2026年3月期 予想】 売上高内訳（連結）

（単位：百万円）

連結	2025年3月期	2026年3月期		
	実績	予想	前年実績比	
			増減額	増減率
グロウジェクト®	18,098	17,800	△298	△1.6%
イズカーゴ®※	5,718	6,400	+681	+11.9%
テムセル®HS注	2,904	2,700	△204	△7.0%
腎性貧血治療薬	3,784	3,100	△684	△18.1%
エポエチンアルファ BS注「JCR」	1,690	800	△890	△52.7%
ダルベポエチンアルファ BS注「JCR」	2,093	2,300	+206	+9.9%
アガルシダーゼ ベータ BS点滴静注「JCR」	1,149	1,100	△49	△4.3%
医薬品合計	31,655	31,100	△555	△1.8%
契約金収入	517	5,500	+4,982	+963.2%
その他※	898	1,200	+301	+33.5%
売上高合計	33,072	37,800	+4,727	+14.3%

※イズカーゴの売上高のうちNPSプログラムによるものは「その他」に含む

売上高内訳（予想）に関する補足説明

- グロウジェクト®は電動デバイスの有用性の訴求や、潜在患者や新規患者への積極的なアプローチなどにより販売数量の拡大を目指しますが、薬価改定の影響を受け、売上高の減少を見込みます
- イズカーゴ®は2023年4月より開始した領域専任制によるイズカーゴ®専任MRの配置や、住友ファーマ株式会社との共同プロモーションにより、継続して売上の増加を見込みます
- テムセル®は競合環境の変化により、売上減少を見込んでいます
- 腎性貧血治療薬とアガルシダーゼベータBS点滴静注「JCR」は販売先への供給計画に準じた売上高を見込んでいます
- 契約金収入はライセンス契約の締結を予定していることなどにより、前期を上回る水準を見込んでいます

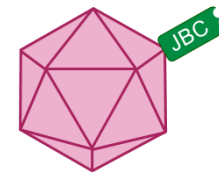
2025年7月

アレクシオン社とJUST-AAV技術に関するライセンス契約を締結



- アレクシオン社は、**最大5つまでの同社の遺伝子治療プログラム**に対してライセンスを受けたJUST-AAVカプシドを適用可能
- 最大で8億2,500万米ドル**のマイルストーンフィー
 - 研究開発マイルストーンフィー : 最大 2億2,500万米ドル
 - 販売マイルストーンフィー : 最大 6億米ドル

JUST-AAV



目的とする組織・臓器への指向性を有し
かつ特定の組織・臓器への移行性を低減したAAV

AAV: アデノ随伴ウイルス
JBC: J-Brain Cargo®

神経変性疾患、核酸医薬品の共同研究に続く
アレクシオン社との第三のパートナーシップ

2025年7月

アキュメン社とJ-Brain Cargo®技術に関するライセンスのオプション契約を締結



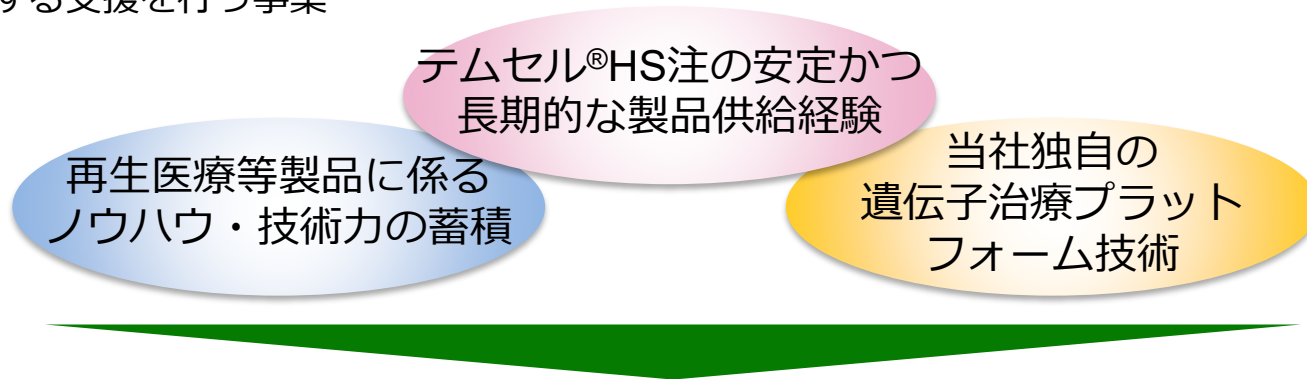
- **血液脳関門通過型アルツハイマー病治療薬の開発が目的**
 - アキュメン社のAβO選択的抗体と、血液脳関門通過技術であるJ-Brain Cargo®の組み合わせ
 - J-Brain Cargo®適用の対象となるアルツハイマー病治療薬候補は最大2つ
 - 候補のひとつsabinetugについては、アキュメン社が臨床第II相試験を進行中
- **最大で5億5,500万米ドルのマイルストーンフィー**
 - 開発マイルストーンフィー : 最大 4,000万米ドル
 - 販売マイルストーンフィー : 最大 5億1,500万米ドル

AβO: アミロイドベータオリゴマー
アルツハイマー病の発症と進行の主要な病理学的
要因である、毒性のある可溶性タンパク質

当社独自の血液脳関門通過技術を用いて
最も困難な医療課題のひとつであるアルツハイマー病に挑む

再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備支援事業費補助金 (再生CDMO補助金)

- ・ 経済産業省による事業のひとつ
- ・ 再生・細胞医療・遺伝子治療製品に関するCDMOの国内受託製造拠点の整備や製造人材育成に対する支援を行う事業



**当社のみが提供しうる新たな価値を実現すべく
製造設備投資を進める**

AAV	Adeno-associated virus	アデノ随伴ウイルス
A β O	Amyloid beta oligomer	アミロイドベータオリゴマー
BBB	Blood-brain barrier	血液脳関門
CDMO	Contract development and manufacturing organization	医薬品開発製造受託機関
CNS	Central nervous system	中枢神経系
GFP	Green fluorescent protein	緑色蛍光タンパク質
GHD	Growth hormone deficiency	成長ホルモン分泌不全性低身長症
GOI	Gene of interest	ウイルスベクター内に封入する遺伝子配列
i.v.	Intravenous injection	静脈注射
JBC	J-Brain Cargo®	-
MENAT	Middle East, North Africa and Turkey	中東、北アフリカ、トルコ
MPS	Mucopolysaccharidosis	ムコ多糖症
mRNA	messenger RNA	伝令RNA
NPS	Named patient supply	特定の患者への医薬品提供プログラム
Ph I	Phase I	臨床第 1 相試験
Ph II	Phase II	臨床第 2 相試験
Ph III	Phase III	臨床第 3 相試験
R&D	Research and development	研究開発
VG	Viral genome	ウイルスゲノム
YTD	Year to date	年度累計